

前沖縄防衛局長の不適切発言に対する抗議決議

去る 11 月 28 日、沖縄防衛局の田中聡前局長は、報道陣との懇談会の席で、普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書の提出時期について問われたことに対し、「これから犯す前に犯しますよと言いますか」と発言した。非公式の席とはいえ、沖縄における防衛省のトップである沖縄防衛局長が、このような暴言とも言える、人権感覚を欠いた発言をしたことはまことに許しがたいことである。市民はこれまでも、市の中心部に位置する世界一危険な米軍基地普天間飛行場があるがゆえに、米軍人・軍属による事件・事故が多数発生し、危険と隣り合わせの生活を余儀なくされている。さらに沖縄県民は、米兵による少女暴行事件や県民の尊い生命が奪われるなど筆舌に尽くしがたい苦しみと痛み、人権じゅうりんを戦後 66 年間も強いられている。

前局長は既に更迭されたとはいえ、今回の発言は県民感情を逆なでするだけではなく、当該事業の責任者としての認識の欠如を露呈するとともに、女性の人権を無視し、人間の尊厳を踏みにじるものであり、到底看過できるものではない。さらに、政府は更迭直後に評価書を提出すると明言していることも、沖縄に対する配慮が著しく欠けていると言わざるを得ない。

また、一川防衛大臣は、米軍普天間飛行場移設が政治問題化した発端とも言える 1995 年の少女暴行事件について、「正確な中身は詳細には知らない」と参議院東日本大震災復興特別委員会で答弁しており、田中前局長を更迭した直後の大臣の発言としては、緊張感のなさや、沖縄の基地問題に対する防衛省や国の姿勢が問われるものである。

よって、本市議会は、怒りを込めて、田中聡前沖縄防衛局長の発言に抗議するとともに、任命責任者である防衛大臣の責任を明確にすることを強く要求する。
以上、決議する。

平成 23 年 12 月 14 日

沖縄県宜野湾市議会

あて先 内閣総理大臣、防衛大臣、内閣官房長官